

香る庭を眺めながら 15

レモンヴァービーナ

ハーブ研究家 桐原春子さん

玄関の扉の前に置いてあるイタリアのテラコッタ鉢には、触ると強い香りのする植物を植えてあり、来客を驚かす「サプライズ」になっています。

しわのある小さな堅い葉が強烈なレモンの香りのするレモン・ゼラニウム、緑の葉が清々しいのは夏になると白の小花を咲かせるレモンヴァービーナで、冬は落葉するけれど春になると再び芽を出し、みるみる緑豊かな葉へと成長します。もう一本植えてあるのはミントの香りのするペ

パーミント・ゼラニウムでビロードのような手触りの葉です。この中でハーブ・ティーにできるのはレモンヴァービーナ。乾燥した葉が使わ

れます。またその葉は乾いても香るので、世界の各地でポプリにしばしば利用されます。

私が初めてイギリスを旅した1986年の7月のことです。最初に訪問したのが、ケント州のアイホーン・マナーというマナーハウス(※)で、そこに住むシーラ夫人が館の隅々を案内しながらイギリスの家庭でのハーブの使用方法を説明して下さいました。絵画やキルトや刺繍などに加え、ハーブを使ったさまざまな



ピンクの花が咲いているのがレモン・ゼラニウム、とんがった葉はレモンヴァービーナ。丸っぽい大きな葉がペパーミント・ゼラニウムです

のが生活を彩り、旅に出る少し前に我が家でのハーブのある暮らしをまとめた『ハーブのある暮らし』(じゃこめてい出版)を出版したばかりの私にはどの場面も衝撃に近いほどの感動で、参考になり勉強になることばかりでした。

部屋の隅に吊り下げられ、香りがするのはエレカンペインの根ですし、居間にさりげなく置かれているのは、心浮き立つような美しくて素晴らしい香りのポプリでした。そのポプリの材料は皆シーラ夫人が庭から摘んだもので、

オールド・ローズやラヴェンダーの花、ミント、レモンヴァービーナ、マージョラムの葉、そこにオレンジ・ピールが加えられたものでした。ポプリは香りを熟成して作りますが、花とハーブとオレンジの香りが絶妙に混じりあつたものは心を捉えて離しませんでした。

私がシーラ夫人のレシピでポプリを作るのは毎年オールド・ローズの咲く5月の終わり頃です。玄関のテラコッタ鉢からレモンヴァービーナの葉を摘み取り、他の材料とともに籠に入れて乾燥していると、心は時空を飛び越えて、あの素敵な館へと飛んでいきます。

※マナー・ハウス：昔の英国貴族や領主が所有していた館をゲストが宿泊できるようにしたもので、今もホテルになっているところが多くあります。



きりははるこ
長野県松本市生まれ、松戸市在住。英国王立園芸協会会員、英国ハーブ協会終身会員。現在、読売・日本テレビ文化センター京葉などで「ハーブのある楽しい暮らし」の講師を担当。著書に「とっておきの英国庭園」(千早書房)など多数。
<http://www.geocities.jp/haru87herb/>